知って得する全国物価統計調査の活用術

茨城県企画部統計課　物価家計グループ　梶山　善彦

同じものを買うなら安く買いたい！この商品は何処で買えば安いのか教えて欲しい！

このような要望に応えてくれる統計が全国物価統計調査です。この調査は５年ごとに実施され，この調査結果は，家計の財布を預かる主婦にとって，とても助かる価格情報として活用できます。また，販売競争の激しい中にある，あなたのお店（経営者）にとっても集客をはかる有効な手段を探り，さらに市場動向を把握し経営戦略を練る資料として上手に活用していただきたいと思います。

特売はスーパーで，日曜日が多い

さて，前回の平成14年の調査結果から割引販売について見てみます。大規模スーパーの41％が割引販売を実施しており，小規模店では14％が実施しております。割引販売の対象品が多い曜日は，日曜日が最も多く，次いで土曜日，木曜日の順となっております。月曜日に割引販売を行う店は少ないので避けたほうが良いでしょう。

また，スーパーは割引率が高いので，大規模スーパーの割引販売日に買い物をすると家計に良いでしょう。

それでは，どのような商品が特売されているのでしょうか？

本県の大規模スーパーにおける特売実施率の上位５商品は牛乳（72％），砂糖（69％），小麦粉（64％），鶏卵（63％），食用油（62％）の順となっております。

割引率の高い商品は鶏卵（48％），醤油（48％），砂糖（40％），小麦粉（39％），食用油（38％）となっております。

表１　大規模スーパーにおける特売状況（％）

（売場面積 450 ㎡以上）

品　目	牛　乳	砂　糖	小麦粉	鶏　卵	食用油	ヨーグルト	醤　油	ティシュペーパー	インスタントコーヒー
特売実施率	72	69	64	63	62	62	59	58	55
割　引　率	15	40	39	48	38	28	48	24	32

衣料品や食料品は，お店の形態で価格が違う

お店の従業員構成と価格の関係を見ますと，パート・アルバイトの比率が多くなるにつれて衣料品や食料品の価格が安くなる傾向があります。大規模スーパー，量販専門店，ドラッグストア，生協ではパート・アルバイトが多く，一般小売店や百貨店は少ない状況にあります。多い店と少ない店の価格を比較するとワイシャツやブラウス，スラックスなどの衣料品は20％以上安い商品があります。

また，まぐろ，塩さけ，豆腐などの食料品は10％以上安くなっております。

お店の形態と価格差を見ると，百貨店では，多くの商品で10％以上高くなっています。

コンビニも全体的に高い傾向にあります。衣料品を買うならスーパーだと，かなり安く買えます。ドラッグストアではコーラ，胃腸薬，シャンプーが比較的安く買えます。ミネラルウォーター，ティシュペーパー，洗剤は量販専門店へ行くと安く買えるでしょう。

図１業態別にみる安い品目及び高い品目（大規模店）

次に，インターネット通信販売と量販専門店の店頭価格を比較すると，通信販売価格はビデオカメラで14%，デジタルカメラやDVDプレーヤーなどAV機器で11～13%，パソコンで５%安くなっています。一方，PCプリンターは店頭販売の方が安い結果となっています。全ての商品で通信販売が安いということでは無いようです。購入するものによって選択することが上手な活用法といえます。

表２　通信販売価格と店頭販売価格の比較

（単位：千円，%）

	パソコン	プリンター	デジカメ	ビデオ	MD	DVDプレーヤー
通信販売	162	20	36	130	16	17
店頭販売	170	17	41	151	19	19
価格比(%)	△4.7	17.6	△12.2	△13.9	△15.8	△10.5

茨城は生鮮野菜や魚介類が安く，暮らしやすい

全国的に見た場合，茨城の物価は安いのですか？高いのですか？

物価の地域的な高低を示す指数として全国物価地域差指数があります。全国平均を100として各都道府県別に指数化しております。この指数をみると茨城の物価は95.8と全国平均を下回り，全国順位で39位です。１位は東京で２位神奈川，３位京都となっており，最も低いのは沖縄です。全国平均を上回るのは６都府県のみです。物価は大都市ほど高く，人口の少ない市町村へ移行するにつれ段階的に安くなります。大都市の物価は町村に比べて15%ほど高くなっていることが分かります。これは，主に民営家賃などの「住居費」の高低差と授業料などの「教育サービス費」の違いが影響しているためです。

表３　都道府県別地域差指数（総合）

（全国＝100）

	東京都	神奈川	栃木県	茨城県	群馬県	宮崎県	沖縄県
指　数	108.7	106.1	96.1	95.8	94.6	93.4	92.3
順　位(位)	1	2	38	39	44	46	47

東京と茨城の地域差指数を比べて見ますと，東京108.7に対し茨城95.8と12.9ポイント下回っております。物価が安く，暮らしやすい県であることが分かります。特に野菜・海藻（43位）や魚介類（45位）などの頻繁に家庭で消費する食料が安いことから，エンゲル係数も東京22.3に対し茨城19.6となっております。茨城の消費品目としては，納豆（１位），メロン，カツオ及び白菜漬物（３位），しじみ（４位）など特産品が愛用され，全国上位にランクされています。

給料の地域手当は取手，つくばで高い

また，この地域差指数は給与に付帯する地域手当の支給額算定資料や生活保護費の地域調整の資料として利用されております。

例えば，国家公務員の茨城県内における地域手当支給状況は下表４のとおりとなっており，県南地区で高い支給率となっております。

表４　国家公務員の地域手当支給率

（平成 19 年４月１日現在）

支給地域	取手市	つくば市	水戸市 土浦市 守谷市	日立市 ひたちなか市 古河市 牛久市	龍ヶ崎市 筑西市
19年度	6%	6%	4%	2%	2%
22年度	15%	12%	10%	6%	3%

＊　19年度は財政状況による経過措置の支給率。22年は最終年度。

11月21日に実施される全国物価統計調査に御協力を！

さて，本年11月21日㈬に10回目となる全国物価統計調査が実施されます。

茨城県の対象地域は21市町。人口10万人以上のすべての市と対象市町内のすべての百貨店，スーパーなどの大規模店舗（売場面積1,000㎡以上）の356店舗が調査対象となります。

さらにコンビニ，量販専門店，一般小売店，飲食店及びサービス事業所などを加え最終的には3,310店舗での価格調査，割引・特典の有無，通信販売価格，従業員数及び競合店の有無などの調査を実施します。

調査品目は家計における生活必需品とされるもので約180品目。主に食料品，衣料品，家具，電化製品及び光熱費などで消費者物価指数のウエイトが，１千分の１以上となる品目が選定されました。

今回は，販売額が一貫して拡大を続けているインターネットなどの通信販売を行う事業所・企業の取引の実態や店頭販売との価格差が明らかにされます。

また，割引販売やポイントサービスなどの特典の実態も明らかになります。個人消費300兆円のうちポイントサービス市場は４千７百億円と既に15％を占めるといわれており，この実態を解明する調査結果に期待がかかります。

調査の際は，県内各地で約80名の調査員があなたのお店へお伺いしますのでよろしく御協力くださるようお願いします。また，飲食店，サービス業事業所の皆様には，市町村職員による聞き取り調査がありますので御協力くださるよう重ねてお願いします。

家計調査に見る水戸市民の生活

茨城県企画部統計課　物価家計グループ　**石井　智子**

「貴重な資料となっております。」家計調査をお願いするときに常に説明している言葉です。

例えば国民経済計算の個人消費額の算出に利用しております。また，消費者物価指数の品目選定やウエイト算出資料に利用しています。あるいは経済対策や社会保障施策に利用されています。・・・と説明されても一般の主婦にとっては，身近な出来事として理解できず，漠然とした雲を掴むような説明になってしまいます。もっと具体的に説明して欲しいとの要求があると思います。

このため，より身近な説明ができないかと試みたのが，水戸市民の生活像を明らかにして家計調査への理解を深めてもらうことでした。少しでもお役に立てば幸いです。

水戸市民は納豆，かつお，しじみなど特産品を愛用

平成18年家計調査の都道府県庁所在市別ランキングを基に水戸市民の全国的な位置と特徴を見てみました。

一つには本県の特産品として親しまれている納豆，かつお，しじみに対する支出金額が全国トップクラスとなっております。特に，納豆消費額は例年，福島県と１位争いを演じており18年には6,332円と全国平均の1.6倍の消費をし，再び１位を奪還しました。ここ10年間の全国における納豆消費額は14％増加しております。朝食が洋風化する中にあって健闘しております。

この要因としては健康ブームに加え納豆メーカーによる特有のにおいを抑えた商品開発や従来消費が少なかった西日本進出などが背景となっているものと思われます。

ご飯と共にたべる主食の友として，以前から東北・北関東地方では納豆，九州ではたらこが好まれておりましたが，この地域差は縮小する傾向にあります。

水戸市民が特産品を愛用すると同じように，どこの地域においても特産品を愛用する傾向はあります。仙台の「かまぼこ」横浜の「しゅうまい」長崎の「カステラ」などは家計消費額日本一となっております。お隣の宇都宮市は，この家計調査の「ぎょうざ，日本一」の結果を活用して地域振興を図ったモデルケースとなっております。

表１　近県の年間購入量が全国上位の品目（16 年～ 18 年の３ヵ年平均）

水 戸 市	かつお，しじみ，納豆，せんべい	福 島 市	かつお，ヨーグルト，桃，納豆
宇都宮市	だいこん，いちご，餃子，せんべい	東京区部	バター，レタス，ぶどう酒，ようかん
前 橋 市	トマト，きゅうり，乳酸菌飲料	横 浜 市	ハム，チーズ，ジャム，しゅうまい

話は脱線しますが，某テレビ局の人気番組で１月７日に放送した「納豆ダイエット」がデータ捏造で社会問題になりました。この放送があった日以降の納豆の日別支出金額をみると，７日の放送当日は10円でした。翌日は19円に跳ね上がり，店頭の納豆は売れ切れ，メーカーは臨時増産を迫られるなど高い消費水準が続きました。しかし，20日に捏造問題が報道された後は２月平均12円，３月平均11円と元に戻ってしまいました。このように家計調査は日々の支出の変化も的確に捉えることができる統計として

活用できます。

生鮮野菜や米のもらい物多く，エンゲル係数は低い

また，県産食材を愛用する一方，米（46位）や野菜（白菜，じゃがいもは最下位）については自家栽培や現物でのもらい物が多いのも水戸市民の特徴となっています。このためエンゲル係数は21.1％と全国平均より2.2ポイント低くなっております。終戦直後の生活物資の過度の不足により貧窮状態にあった昭和21年時点でのエンゲル係数は66.4％ありました。その後３年間60％台が続きました。「もはや戦後ではない」と言われ，高度成長期が始まった昭和34年に40％を切り，飽食の時代といわれる現在に至っております。

現代の食生活の中味も変化しております。米などの穀類の割合が低下し調理食品や外食の割合が伸びてきております。これは女性の社会進出に伴う家事の省力化要求と食事のレジャー志向，食品産業の冷凍技術や流通形態の進展から伸びているものと思われます。

庭先での園芸，旅行やゴルフを楽しみ，マイカーで行動する

本県の住宅敷地面積（446㎡）は日本一となっており，広い庭が有ります。水戸市民の庭先にも緑ゆたかな庭園樹木が生い茂り，花壇や菜園を作って楽しむ機会が多いことから園芸用品や植木・庭の手入れへの支出額は全国４位となっています。

また，マイカー保有台数が群馬県，栃木県に次いで全国３位となっていることから自動車購入台数（３位）自動車保険（１位）自動車整備費及びガソリン（各５位）と自動車関連経費への支出額が多いのも特徴です。

さらに，宿泊料，遊園地入場・乗り物代，旅行用かばん（各１位），ビデオカメラ（２位）写真現像焼き付け代や婦人洋服，帽子，マフラー・スカーフなどが２位から５位以内となっています。有料道路代（10位），外国パック旅行（12位）などを考慮すると旅行好きであることが分かります。これに加え県内に100を超えるゴルフ場を有するゴルフ王国の一つであることからゴルフ用具の購入（４位）も毎年上位となっています。

年間消費支出は376万円で全国12位

平成18年の水戸市の１世帯あたり年間消費支出額は，3,764,836円と全国12位で県内総生産（12位）や１人あたり県民所得（13位）とほぼ同じ順位です。17年の消費支出は3,669,106円で21位でした。18年は前年と比較して95,730円（2.6％）とわずかに増加しております。

10年前の平成８年に4,095,089円あった消費支出額は，失われた10年と言われたデフレ経済下において家計消費が年々，縮んできていましたが，今年に入り底打ち感が出ていることが分ります。

なぜなら，19年に入った１月から対前年同月比で６ヶ月連続プラスとなっており，家計消費にも明るさが見えてきました。家計消費は国民経済計算の約50％を占めると言われていることから，この増加が日本経済の活況に大きな影響を与えることがうかがえます。

ここ10年で衣料品と教育費の割合は縮小

さて，支出の費目別構成比を見ると，ここ10年で大きく構成比を減少させたのは，衣料品や履物費です。アジア諸国からの安い輸入品が入ってきております。これらの商品はロードサイドに立地した量販専門店や大規模モール店などで販売され低価格競争が激化しております。

２番目は少子化の影響を受けている教育費です。国民生活基礎調査をみると18歳未満の児童のいる世帯の割合は，平成７年（11年前）の33％から18年（現在）は27％と長期的に減少してきています。水戸市においても教育費はここ10年で25％減少しており，構成比も5.2％から4.3％へ下げております。しかし，子供を持つ世帯にとって大きな負担となっていることに変わりはありません。東京都の家計報告の中に，子供が生まれてから大学を卒業するまでに３人世帯（子供１人）が負担する総消費支出額は約１億円という研究結果が報告されています。教育費をみると子供が高校，大学に進学する時期には小中学校時代より２～３倍の支出増加となります。世帯主の収入だけでは家計を支えられなくなり，配偶者の収入や貯蓄の取り崩し，学資ローンに依存する苦しい時期といえます。

表２　ここ 10 年の水戸市民の 10 大費目別消費額の比較表

（単位：円，％）

		主年齢	世帯員	消費支出	食料	住居	光熱水道	家事家具	被服履物	保健医療	交通通信	教育	教養娯楽	諸雑費
全国	1996年	51.4	3.34	3,946,187	1,016,331	266,960	243,719	158,008	248,667	124,996	420,698	177,900	399,552	889,357
	2006年	55.2	3.16	3,539,316	891,439	217,444	267,346	121,201	163,107	154,845	456,161	151,825	378,703	737,245
	伸び率	3.8	△0.18	0.897	0.877	0.815	1.097	0.767	0.656	1.239	1.084	0.853	0.948	0.829
水戸市	1996年	48.7	3.30	4,095,089	932,505	190,282	224,973	134,307	291,797	148,223	480,635	213,884	472,068	1,006,415
	2006年	53.4	3.03	3,764,836	882,976	253,925	258,422	107,976	197,365	155,947	556,030	160,100	427,232	764,861
	伸び率	4.7	△0.27	0.919	0.947	1.334	1.149	0.804	0.676	1.052	1.157	0.749	0.905	0.760

ここ10年で交通・通信費と光熱費の割合は拡大

一方，ここ10年の費目別支出額都道府県ランキングをみると，水戸市において大きく構成比を増加させたのは，交通・通信費と光熱・水道費です。交通費は18年に４位となっております。自家用車の普及によって購入費や保険，整備費など関連経費の支出が増加しました。これに原油高によるガソリンやバス運賃などの値上がりが加わり構成比を拡大したものであります。また，通信費も18年に５位になっております。携帯電話通信料は95,260円と大きく伸び７位となり，固定電話通信料も46,117円と１位となっております。携帯電話通信料は固定電話の２倍の通信料となっています。

このことから水戸市民は全国５位の電話連絡のまめな市民であることが分かります。

次に構成比を拡大したのは，光熱・水道費であります。ドラム式洗濯乾燥機，電子レンジ，パソコン薄型テレビなど電化製品類の普及とエアコンの夏冬稼働により電気代が上昇する傾向にあります。

これに加え原油高の影響による灯油の高騰により光熱費が伸びているためと考えらます。

この外，保健・医療費も構成比を緩やかに拡大する傾向にあります。特に診察費は10年間で27％増加しております。平成13年１月から70歳以上の患者負担が定額制から１割負担に変更，平成15年４月に患者負担が３割へ引き上げられたことが影響しております。診察費は花粉症が流行する春先の時期や風邪を引く寒冷な時期に月別割合が高くなっております。

また，60歳以上の高齢者ほど医薬品と診察費へ出費が多くなるのは当然ですが，高齢者は，日頃の健康意識も高いことから健康保持用食品（サプリメント類）への支出も多くなっております。

なお，水戸市における住居の構成比が拡大したのは18年調査の対象世帯が通常年より持ち家世帯が少なく，公営住宅と給与住宅への入居世帯が多かったため全国の構成比と相反する動きをしました。これは調査サンプル数（96世帯）が少ないため内容の変化ではなく集計結果に調査の偏りが生じたものと考えております。

薄れる正月情緒，コンビニ化するおせち料理

表３　水戸市の 18 年月別消費支出額

（単位：円，％）

	1　月	2　月	3　月	4　月	5　月	6　月	7　月
全　国	294,617	269,418	313,350	312,872	292,114	280,824	292,328
構成比	8.3	7.6	8.9	8.8	8.3	7.9	8.3
水戸市	298,685	261,061	299,674	312,557	297,060	362,999	289,254
構成比	7.9	6.9	8.0	8.3	7.9	9.6	7.7

	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	計
全　国	292,087	273,194	294,693	282,860	340,959	3,539,316
構成比	8.3	7.7	8.3	8.0	9.6	100
水戸市	261,151	328,648	346,609	334,599	372,539	3,764,836
構成比	6.9	8.7	9.2	8.9	9.9	100

次に１月から12月までの水戸市の月別消費支出額を見てみると，最も多いのは12月で372,539円となっており，最も少ないのは２月で261,061円となっております。

12月の支出額が多いのは，年末・年始の食料品や暖房器具，灯油類の買いだめ，お歳暮やクリスマスイベントがあるためです。しかし，最近，このお正月分の前倒し需要というピークは平準化されつつあり，もちなどの穀類や魚介類など素材食品の購入は低下し，既に調理された食品への支出が増加しております。今や，おせち料理は「家庭で手作りするもの」から「買ってくるもの」へ変ってしまったようです。

年始に飲むビールや酒などの飲料類は年末に買いだめせずに，年始から営業しているコンビニやスーパーで買うようになりました。お正月情緒は薄れ行き「コンビニがあれば年が越せる型」の年末・年始になって行くのでしょうか？

このように，家計調査も時代や世相の変化を映す鏡となっていることに感動を覚えます。

皆さんから集められた統計データは，真に，貴重な資料となっていることが実感できます。どうぞ，家計調査員があなたのご家庭を訪問しましたら調査にご協力くださるようお願いいたします。